

# 田辺かずき 市政報告

オール古賀を实践！  
まちづくり推進中！

県市通算第56号  
(市政第2号)

2019年12月発行

<田辺かずき事務所>  
〒811-3103 福岡県古賀市  
中央 1-6-41-203  
TEL : 092-692-8510  
FAX : 092-410-7730  
メール : challenge@  
tanabe-kazuki.jp

【裏面もあります！】  
■福岡堅樹選手に感謝状  
■総合計画策定スタート

## 中心市街地活性化へ協定締結 整備イメージを初めて公表

私がまちづくりの「1丁目

1番地」と位置付ける古賀駅周辺の再開発で、まずは東口周辺から進めるため、最大地権者のニビシ醤油さまと協力を協定を締結しました。今後、このエリアに商業や居住、情報発信などの機能を付与し、古賀市全体の活性化につなげるため、都市計画決定や開発手法などについて具体的な協議を進めていきます。

東口を中心とした駅周辺の再開発は古賀市の長年の懸案であり、今回の協定締結は重要な転機となります。私は公約である「古賀駅周辺のにぎわい創出」の実現をめざし、市長就任後、ニビシ醤油の末松繁雄社長と会談し、市都市計画課が同社と協議を重ね、連携・協力関係の構築を進めてきました。その結果、11月14日に古賀市役所で協定書にそれぞれサインをいたしました。なお、協定の対象となる敷地は3・4ヘクタールとなります。

そして、東口整備のイメージ図を初めて作成し、公表しました。私は再開発を進めるうえで、市民の皆さまと「古賀市はこの地域をどのような空間にしていきたいのか」を具体的に共有することが必要不可欠であると考え、今年度中のイメージ図の公表を市議会でお約束していました。

さらに、国との連携も重要と考え、この間、私が国土交通省に直接出向くなどしてやり取りし、国が提唱する「ウォーカーブル推進都市」にもなりました。

東口整備のイメージは①多様な人が訪れ、出会い、にぎわいを楽しむ場の創出②さまざまな世代、世帯形態に対応した多様な住まいの供給③歩いて暮らせる回遊性のあるまちづくり④古賀市のストック（地域資源）を生かした魅力の発信⑤古賀市の玄関口にふさわしい印象的な空間・景観の創出――。これらを具現化するため、整備エリアの真ん中に古賀駅と生涯学習ゾーンをつなぐシンボルロードを設け、「人」を中心とした心地よく歩ける空間を形成。その周囲に商業や居住、まちの魅力の情報発信などの機能を想定して配置していきます。

今後、さらに具体的に検討を進めますが、今回の協定締結がなければ何も始まりませんでした。古賀駅周辺のにぎわい創出に向けて、引き続き全力を尽くしてまいります。

◇ ◇

古賀市の産業の魅力が詰まった最大のイベント「第35回まつり古賀」が

## 田辺の政治活動を連日発信中！

市長の活動は質的・量的に膨大でこの市政報告書のような紙媒体による情報発信は限界があります。インターネットの私自身のブログやFacebook、Twitter、Instagram、LINE、古賀市公式HPでは毎日の活動をリアルタイムで報告していますので、こちらも読んでいただくと幸いです。よろしく願いいたします！

開催されました。ニビシ醤油さまの創業100周年を記念し、初めて同社工場敷地内を会場とし、例年に増すにぎわいで、人が行き交う様子はまるで「商店街」のようでした。市内外からご来場いただいた皆さま、多大なるご協力をいただいたニビシ醤油さまに心から感謝を申し上げます。

# 古賀駅東口開発でニビシ醤油さまと協力！

古賀市によるJR古賀駅東口周辺地区まちづくりの検討に関する協力協定



古賀市はこの地域をどのような空間にしていきたいのか」を具体的に共有することが必要不可欠であると考え、今年度中のイメージ図の公表を市議会でお約束していました。



# ラグビーW杯 福岡堅樹選手に感謝状を贈呈！

## 日本初の8強、PV大盛況 東京五輪も全力応援！

ラグビーワールドカップ（W杯）日本大会で、日本は初のベスト8進出という歴史的な快挙を成し遂げました。古賀市出身の福岡堅樹選手も大活躍し、日本の勝利に大きく貢献しました。古賀市では福岡選手の地元として、パブリックビューイング（PV）を開催。回を重ねるごとに人数が増え、最後の南アフリカ戦は480人と初回の4倍に古賀市だけでなく、宗像市や福岡市、糟屋郡などからも集まっていただき、大きな声援を送ることができました。

11月22日、古賀市として市役所に福岡選手を迎えてセレモニーを開催。私から、PV会場などで市民の皆さんがW杯を観戦し、福岡選手と日本代表のプレーから勇気づけられたことへの感謝と、2020年の東京オリンピックに向けても全力で応援していく考



えを申し上げました。W杯で「最高のパフォーマンス」を実現できたと言語る福岡選手からは、古賀市はもちろん全国からの声援への感謝、そしてオリンピックでメダル獲得をめざす決意が示されました。板金加工会社ナダヨシの植木剛彦社長からステンスレスの肖像、博多人形師の鶴田加奈子さんから福岡選手のラグーアードール、市職員有志制作のモザイク画、福岡選手を特集した広報誌が「こがんと。」を贈呈。その後、母校の青柳小と古賀東中で子どもたちと交流し、県庁でも報告会を開催しました。

W杯開幕前から古賀市として福岡選手と日本代表を盛り上げていこうと取り組んできました。このW杯で私たちが経験したこと、学んだことをこれからのもちづくりにつなげていくことが必要です。そして、来年の東京オリンピックの7人制ラグビーをめざす福岡選手を引き続き全力で応援していきます。

また、PVなど一連の取り組みにあたり、古賀市内の多くの事業者の皆さんにもご協力いただきました。大規模国際大会を契機として地域の魅力を発信できる可能性の大きさも実感できました。すべての皆さんに心から感謝を申し上げます。

## 総合計画策定をスタート！ 子どもとの対話集会「コガトーク」開催！



古賀市は令和4年度（2022）年度から10年間のまちづくりの基本指針となる総合計画の策定作業に今年度着手しました。11月からは私自身が市内全46行政区を回り、市民の皆さんと「対話」をするタウンミーティングを始めています。

さらに、総合計画に「子どもの声」を反映するため、市内の小中学生を対象に「みんなで描く古賀市の未来」と題して提案型の作文コンクールを実施し、1200人を超える応募がありました。私もすべて読ませていただき、入賞に輝いた70人と対話する「コガトーク！」を開催。子どもは本当によく社会を見ています。私たち大人では気づかない、発想できない、言い出せないことがたくさん提案されました。「私たちが古賀市の『PR大使』になる！」という心強い声も。子どもも市民であり、未来の大人であり、社会の主役である主権者だとあらためて実感できました。

## 観光・物産・情報発信のPTが始動

私の就任前から検討されてきた「道の駅」について、これまでの調査結果や皆様からいただいたご意見を基に「整備しない」と判断しました。そのうえで、市として観光・物産・情報発信を強化するため、プロジェクトチーム（PT）を立ち上げました。令和2年度以降の取り組みにつながるよう検討を進めています。

## 予防接種の再接種の費用助成を開始

小児がん治療等の造血細胞移植（骨髄移植等）により、移植前に接種した予防接種の予防効果が期待できないと医師に判断され、任意でワクチンの再接種を行う人に対し、接種費用の助成を今年度から開始しました。2019年度当初予算に盛り込みました。

## 薦野・清滝地区の農業基盤整備に予算

2019年度補正予算で、産業力の強化に資する農業振興策のうち基盤整備の推進に関連して、薦野清滝地区のほ場整備に向けた費用を初めて計上しました。

## 「パートナーシップ宣誓制度」を制定へ

LGBTなどの性的少数者の皆さんへの偏見と差別を解消し、権利を保障するため、古賀市として、性的少数者のカップルを公的に認定する「パートナーシップ宣誓制度」を早期に制定する方針を明らかにしました。九州では県庁所在地・政令市以外の一般市町村で初となります。

## 【田辺かずき プロフィール】

- 1980年 5月16日生まれ
- 1987年 暁の星幼稚園卒園
- 1993年 花鶴小学校卒業
- 1996年 古賀中学校卒業
- 1999年 県立福岡高等学校卒業
- 2003年 慶應義塾大学法学部法律学科卒業
- 2003年 毎日新聞社入社
- 2011年 福岡県議会議員就任（1期目）
- 2015年 福岡県議会議員再任（2期目）
- 2018年 古賀市長就任（1期目）